

吉田苞竹創刊



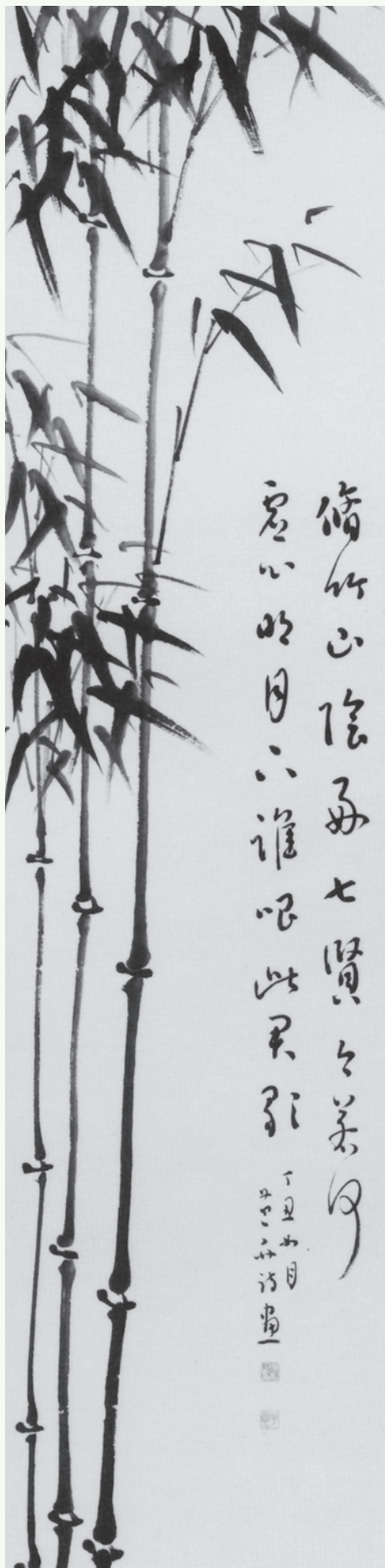
令和四年(2022年)

二月号



公益財団法人
書壇院

公益財団法人書壇院は、書道の研究、教育及び普及に関する事業を行い、書道芸術の高揚と精神の修養、人格の陶冶を図ることを目的としています。



昭和四年三月十五日
令和四年二月五日
(第三種郵便物認可)
発行所 納印行

(毎月一回五日発行)

第九十五卷

第二号

第二二七号

九燭臺前十二妹主人留醉
任歡娛飄飄舞袖雙花蝶
宛轉歌聲一索珠坐久欲

九燭臺前十二妹^(妹)主人留醉

任^(二)歡娛飄飄舞袖雙花蝶、

宛轉歌聲一索珠坐久欲

(漢字臨書規定 8頁)

課題

半切 九燭より索珠まで (二十八字)
半紙 九燭臺前十二妹^(妹) (七字)



調和

江川蒼淵

オリンピックが二〇二一年七月末から東京を中心として開催されました。『健全なる精神は健全なる身体に宿るように願う心を……』といわれております。我々書の世界にも他流試合的な書展やグループの発表による書展があります。

私も日頃から健康のため、少々運動や散歩を心がけておりました。コロナワクチン接種後、一・二回目共に体調を崩しましたが運動を再開。普段から仕事に支障をきたさぬようかなり気をつけていたのですが、足を痛めてしまいました。

心していても、またよかれと思っていても、逆の結果になることがあります。身体と心の調和が乱れると、いろいろなところに影響がでてしまいます。

書の学びについても、やはり同じようなことがいえるのかなと思います。「あれ」も「これ」も学びたいと願う心は理解できます。人によって違いがあります。広く学ぶことから、深く専一に学ぶことの大切さもあります。身体の不都合により、大きな作品が書けないときは小品を書いて楽しむことができます。「身体と心」の調和は、すべての事柄に当てはまるかと思えます。吉田苞竹先生は、正しい書を求めました。オリンピックの精神と重なるような感覚を覚えました。

「身体と心」の調和を求めて、日々過ごして行きましょう。

令和四年 書壇 二月号 目次

表紙Ⅱ書壇院蔵 吉田苞竹画

題字 集鄭道昭書

古典研究……………表2

巻頭言……………江川蒼淵：1

同人参考手本 渡邊保山・平岡玲篁：2

紫陽・戯魚・橙雪・良子

中井言玉・江川蒼淵

競書課題……………江川蒼淵：5

漢字規定……………佐藤節子：6

かな規定……………木岡楓月：7

南画規定……………丸川瑞江・白鳥翔爽：8

漢字臨書規定……………星野静代・柴田千鶴子：9

かな臨書規定……………岩田佳香・加藤玲香：10

日本文……………益満丁盒：11

篆刻入門……………

『書道讀本』吉田苞竹著……………13

第一一二回審査会員遊苑……………14

上位・極位・雅位試験規定……………15

新潟地区および近県 条幅錬成会……………19

第二一二七回選書

写真・批評……………20

成績発表……………32

三月五日締切課題予告……………47

書壇院日記……………49

バーコード券申込書……………50

応募規定・競書出品方法……………51

書画の鑑賞……………平井侗子：表4

渡邊保山書

風林纖月落衣露淨琴張暗水流花徑春星帶草堂一檢書燒燭短
徑玉星帶草堂檢書燒燭短
林長詩心同後角舟意不忘

——杜甫詩——

風林纖月落衣露淨琴張暗水流花徑春星帶草堂一檢書燒燭短
看劍引盃長詩罷聞吳詠扁舟意不忘
(中國詩人選集)

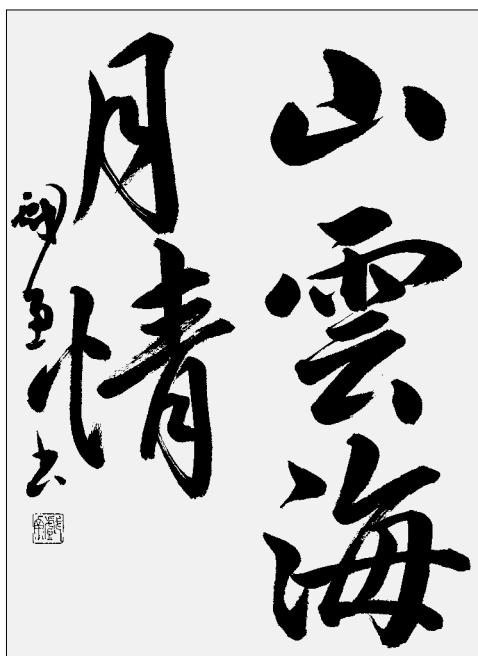
平岡玲篁書

春雪滿空來觸處似花開
不知園裏樹若箇是真梅

——東方虬詩——

春雪滿空來觸處似花開不知園裏樹若箇是真梅。

(墨場必携詠物詩選)



山雲海月情

桑山戯魚書

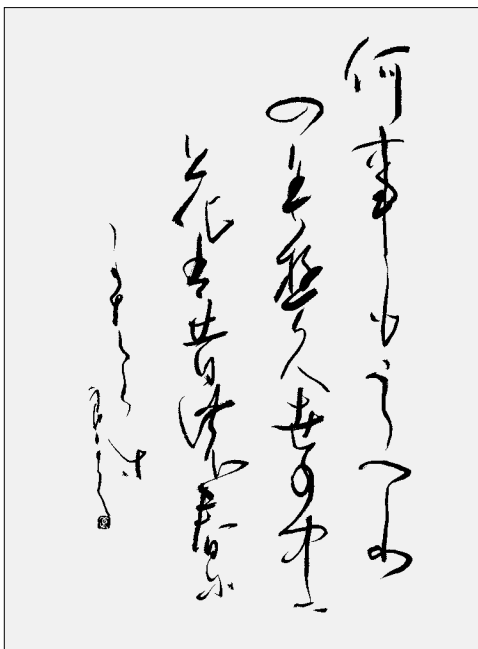


錦城梅花海十里香不斷

碧巖録

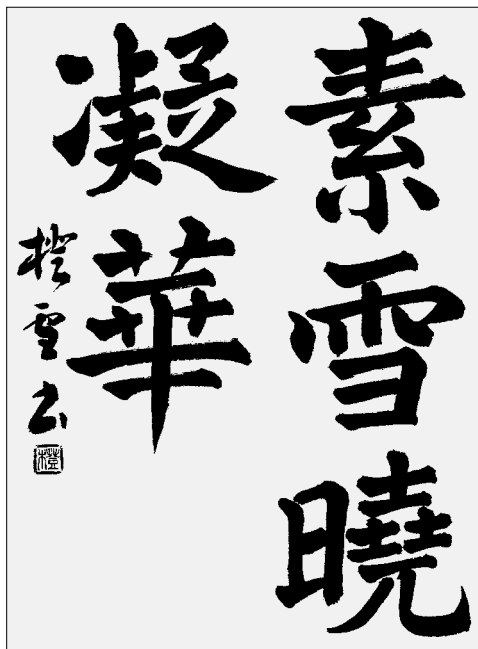
陸游句

和田紫陽書



何事も
可者
かはらず
利美遊久
世の中に
花は昔の
春にかはらず

宮地良子書



素雪暁凝華

良寛の歌

五言句

瀧澤橙雪書

同人参考手本

2尺×6尺額用

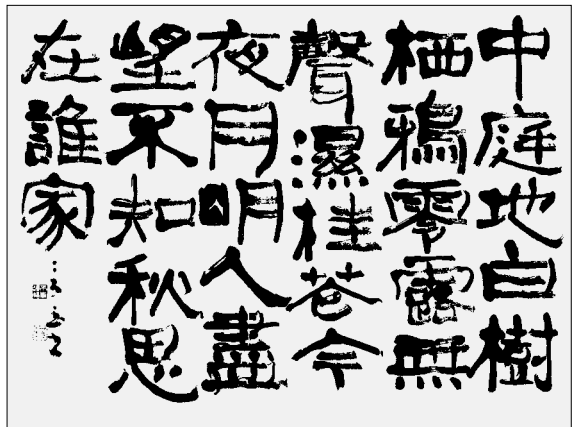
3尺×4尺額用

心清^ク多^ク在^リ道^ニ



江川蒼淵書

—施樞句—



中井言玉書 —王建詩—

中庭地白^{クシデ}樹^{マシム}栖^レ鴉^ヲ
零露無^ク聲^{ホス}濕^ニ桂^花
今夜月明人盡^ヲ望^ム
不知^ラ秋思^ニ在^ル誰^ガ家^{ニカ}

(名詩類選評釋)

用紙 和画箋
筆 和筆・中鋒三号

用紙 台湾紙少し厚手
筆 唐筆・長鋒一号

二月五日締切（楷書）

漢字規定

半紙縦書

上位・準上位課題

故郷杳無際

晩次樂郷縣

故郷杳無際

日暮且孤征

川原迷舊國

道路入邊城

野戍荒烟斷

深山古木平

如何此時恨

噉噉夜猿鳴

晩に樂郷縣に次る
ばん らくきやうけん やど
陳子昂
ちんすこう

故郷杳として際無し
こきやうしやう
さいなし

日暮且つ孤征す
じつぼか こせい

川原舊國に迷ひ
せんげんきうこく まよ

道路邊城に入る
だうろへんじやう い

野戍荒烟斷え
やじゆくわうえんた

深山古木平かなり
しんざんこぼくたひら

如何せん此の時の恨
いかん ここのとき うらみ

噉噉として夜猿鳴く
けうけう やゑんな

玄位〜六位課題

春池深且廣

（春池深くして且つ広し）

深くて広い春の池（王維詩より）

参考手本 玄位〜六位 江川蒼淵書

春池深

且廣

江川蒼淵書



春—右払い、打ち込み少し右から。

池—四画目、長くしない。

深—上部は明るく。

且—縦画、締めすぎぬこと。

廣—左払い、長くしすぎぬこと。

次号課題（予告） 47頁参照

二月五日締切

かな規定

半紙縦書

極位・準極位課題

ひつせ
一年に ふたたび句ふ 梅
はな
の花 春の心に 飽かぬな
るらし

(紀貫之)

妙位ゝ6位課題

うらうらと のどけき春の
心より にほひいでたる
山桜花

(賀茂真淵)

次号課題(予告)

47頁参照

参考手本

妙位ゝ6位

佐藤節子書

※かな漢字相互の変換、ちらし自由。落款は〇〇かく+印。

「わかりやすい」文字を選んで書きました。

参考手本 木岡楓月画

菊



二月五日締切

南画規定

南画初学講座（二〇七）

木岡楓月

※横三十五センチ、縦二十七センチ（小画仙紙半切五分の二）の用紙を横に揮毫のこと。

菊の課題は次回までで、今月は八重咲きの花二輪と蕾です。新春を寿ぐ菊花を年の始めに活けられたご家庭も多く、よく観察されたと思います。

先ず右側の菊花を直筆で線書きをします。次に左側の花、蕾と順番に位置を定め、構図を取ります。最初に花弁を描く時、長流の先につける墨量と、運筆する時の遅速が大切です。形のみにとらわれることなく、味わいのある線で描いて下さい。

葉は前回までに習得された側筆で、同じ向きにならないよう変化をつけ、別図の順番を参考として墨色に気をつけて描き、各々葉の向きを考慮して葉脈を入れます。

画賛は、「菊花寒更香」です。



参考 大久保楓紅画



次号課題（予告） 47頁参照

二月五日締切

漢字臨書規定

小画仙紙半切・半紙縦書

参考資料表紙内側

藤原行成書 — 白氏詩卷 —



丸川瑞江

一〇二七）四十七歳の書である。

藤原行成は、小野道風（八九四～九六六）、藤原佐理（九四四～九九八）と並ぶ「三蹟」の一人で、小野道風没後六年に生まれるが、道風の書に強く憧れ、夢の中で道風に出会って書法を授けられたと、自らの日記（権記）に記している。

行成は、王羲之、小野道風の書法を目標に学びながらも、自らの美意識を加え、天賦の才能と努力で道風や佐理よりもさらに和様化が進んだ独自の書法を確立した。

白氏詩卷は、東京国立博物館蔵の国宝。赤紫、薄茶など美しい料紙を用いた、全長八尺行數六十八の長巻で唐の詩人、白居易（白樂天）の詩文集「白氏文集」に収められた詩八篇を書写したもの。藤原行成（九七二～

当時は、宮廷貴族の教養として漢籍の知識が求められており、白樂天の詩文が広く愛好されていた。この白氏詩卷は、白詩愛好を受

丸川 瑞江 臨 半切参考手本（上位／六位）

九燭臺前十二妹主人留醉
任歡娛飄飄舞袖雙花蝶
宛轉歌聲一索珠

瑞江臨

けて作られた鑑賞用の作品で、和様の書の完成した姿を示しているといわれる。

行成は、字形の正しき、沈着な線を理想とし、その書は優雅で繊細、穏やかで明るい。興に乗って筆の勢が増しても均整のとれた美しい姿はくずれない。

筆は側筆ぎみにし、鋒先を生かした弾力ある線、均整のとれた正しい字形を念頭に臨書しました。

白鳥翔爽臨 半紙参考手本（上位／六位）

九燭臺前十二妹

白鳥翔爽

次号課題（予告）

47頁参照

二月五日締切

かな臨書規定

卷子本古今集

— 十四 — 半紙縦半切

極位〜2位

左を半紙縦半切に臨書すること

(二玄社 日本名筆選²⁸ P.36)



おもひつ、^於ぬればやひとの^著 みえつらん^美 ゆめとしりせば^{利世八} さめざらましを^散

今月の歌は、柔らかく緩やかな運筆で、草・平仮名のみで書かれた流麗な一首です。前月と同様草仮名「お」で始まっていますが、雰囲気は大分異なります。一句目「お」に「も」を添わせたり、字粒の大小、字幅や墨量の変化、行間をやや狭くして、二行目は一行目の字間を埋めるかのような連綿構成、且つ連綿線の長短など、手法が巧妙で見応え十分です。二句目「の」の細線や「みえつらん」のしなやかな線条の美を意識して臨したものです。

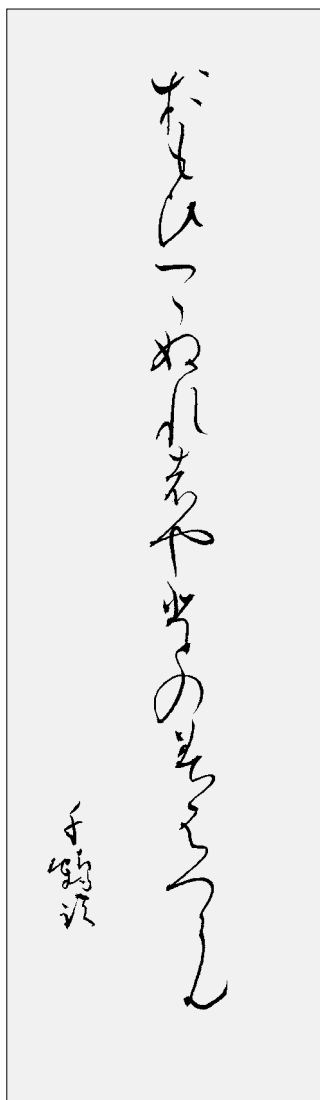
(星野静代)

3位〜6位参考手本 柴^{しば}田^た 千鶴子^{ちづこ} 臨

3位〜6位

半紙縦半切に臨書すること

おもひつ、^於ぬればやひとの^著 みえつらん^美

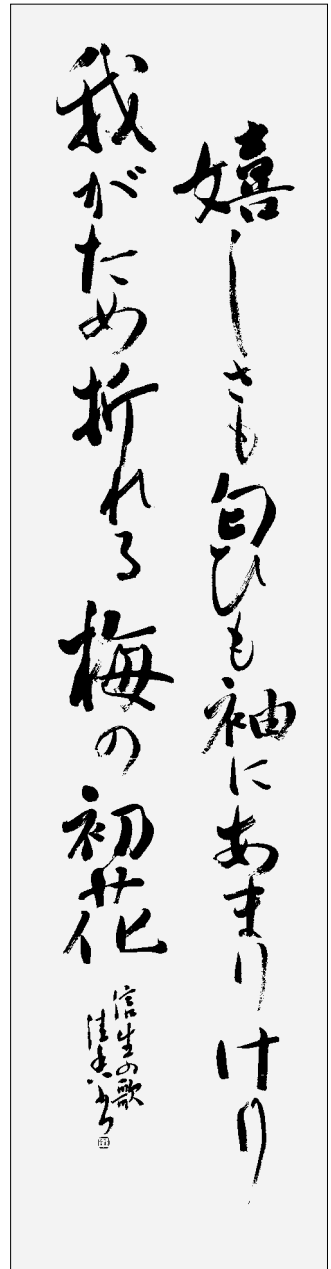


千鶴子

次号課題
(予告)
47頁参照

2月5日締切 日本文

① 条幅規定 半切タテ 参考手本 岩田佳香書



嬉しさも 匂ひも袖に あまりけり 我がため折れる 梅の初花

(信生法師)

② 半紙規定 タテ



参考手本

加藤玲香書

冬来たりなば春遠から
じ

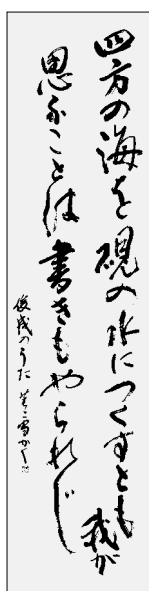
③ 半紙随意 書体・文言自由。半紙ヨコ。

予告 三月五日締切課題

- 半紙・条幅規定 手本参照
- 半紙随意 半紙タテとする

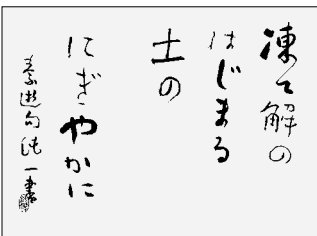
・日本文の級位を書くこと。著作権に注意すること。

条幅規定 タテ 玉井菁雪書



四方の海を 硯の水に つくすとも 我が思ふこと
は 書きもやられじ
半紙規定 ヨコ (藤原俊成)

文字の大きさに留意
して、感謝の気持ちを
表現しました。



柳田純一書
凍く解のはじまる
土の にぎやかに
(長谷川素逝)

篆刻入門

(二二七)

益満丁ます みつ たい あん 盥えん

《応募作品アドバイス》

今月の課題は「渾然和氣」でした。ポイントは氣（气）の処理と、和、龢のどちらを選ぶか、龢氣を用いて上を重たくするか、和氣を用いてバランスを取るか、それぞれ工夫のしどころです。

せることに成功しています。

○蘭陽さん、緻密にして明るい作です。氣の空間絶妙。然の火をもっと中心に締め、ここにも空間を持たせた方が良かったか。龢の下画尖端が氣の右下がりに沿ってしまっところ、一考あります。

○石春さん、きびきびとした動きを感じる作です。線が活きており、氣の上部の潰れ、渾のサンズイ上側二点に光が集まり、文字と辺縁も余裕があるので、それが印全体の深み

【随意】

篆刻課題は「未央厩丞」でした。

○旭霜さん、今回は難しい篆刻課題だと思えます。原印の厩の垂れの左側の反りに注目です。

○朴石さん、鄧散木の「都厩守」を完璧に摹し得ています。秀逸につき写真掲載いたしました。

二月五日締切課題

○規定「随流去」

○随意（または篆刻を含む）

○印は3cm以内、篆刻は原印大とします。

○51・52頁応募規定をご覧ください。

※出品票を貼ったバーコード券を必ず貼付して下さい。

規定参考 益満丁盥作



篆刻参考



趣張司馬

菊地 春果



柴 蘭陽



市瀬 石春



堀 流芳



菅波 旭霜



大川 朴石



三月五日締切規定予告

「溫柔敦厚」

随流去（ずいりゅうこ）流れに従って去る、自分の中にある真実のままに修行すべきことをいう。